

「消防団の力向上モデル事業」事業紹介

NO.	98	地方公共 団体名	香川県土庄町	消防団名	土庄町消防団
担当課	小豆地区消防本部 消防防災課消防団係		連絡先	Tel 0879-62-2220 E-mail r105@town.tonosho.lg.jp	
事業名	土庄町消防団火災対応訓練				

事業詳細

○ 事業の目的・必要性

模擬家屋を燃焼させ火災状態を創出し、消火訓練を行うもの。実体験を通じてこそ得られる火災メカニズムの理解や効果的な放水技術の習得、安全管理体制の構築を目標とする。

○ 事業内容



約三坪の木造平屋建て家屋を二棟建設、内部に燃焼用の材木を設置し火災状態を創出した。開口部から隣接建物へ向け火炎を噴出させ、「現場到着時隣接建物への延焼危険有り」の状況を再現。訓練実施分団は延焼防止に主眼を置いた消火戦術を実践した。



空気呼吸器を持たない消防団員は、屋外から火災に有効な放水を実施する必要がある。事前学習で3種類の放水技術を学習しており、目的に合わせた放水技法を使い分け、その効果を確認しながら消火にあたった。はじめは炎の勢いに慌てた様子が見受けられたが、講師の解説を受けながら最終的には落ち着いて火災状態を確認し消火することができた。

○ 目標達成状況

指標	単位	当初目標値	実績値	備考
説明会	回数	2回	2回	分団長会議（役員会）において、6月・9月の2回に渡り訓練主旨の説明を実施した。
訓練参加者	人数	71人	69人	概ね目標値を達成できた。
住民広報	報道機関	新聞3社 テレビ4社 町広報誌	町広報誌掲載	報道各社にプレスリリースを実施したが、訓練当日は悪天候に記者休業日等も重なり、報道機関からの取材が無かった。
講習会	回数	1回	1回	訓練当日に実施。
検討会	回数	3回	2回	事前打ち合わせ（団本部）実施 検討会（参加団員）実施 結果報告（分団長会議）R5.2実施予定

○ 事業成果

今回の訓練は「人為的に発生させた建物火災の消火訓練」であり、参加団員からは火災経験の少ない消防団員は元より、消防歴の長い消防団員にとっても有意義なものになったとの意見を頂いている。

その要因として、

- ① 事前の設計によりある程度の安全が担保できた訓練であったこと。
- ② 訓練を指揮する講師を配置したことにより、闇雲に火災に向かって行かず、しっかりと建物の状態を観察、把握ができたこと。
- ③ 3種類の消火技法を学習したことにより、筒先員が目的を持った放水ができ、またその効果を実際に体験できたこと。

以上のことが挙げられる。危険な火災現場でより安全に活動を行うために、自分たちはどの様に立ち振る舞うべきか、火災を制圧するために、どの様に活動するべきか（延焼防止目的なのか、消火目的なのか）、参加団員は教材資料だけでは決して得ることのできない経験をすることができた。

対して目標達成値の最も低かったものは、住民広報である。訓練当日は開催が危ぶまれるほどの悪天候ということもあったが、報道機関に対してはプレスリリースだけでなく、記者と直接情報交換を行う等積極的に働きかけるべきであった。町広報誌や防災無線による呼びかけは実施したが、最も効果的なテレビ・新聞報道には掲載されなかった。

その他参考 情報

※URL の記載などをお願いします。